

「生デまちづくり」プロジェクトを通して、学生が身につけた社会人基礎力

—社会人基礎力育成の教材開発と評価—

A study of Fundamentals of social workers of the students through the “Seide Machi-Zukuri” Project

—Development and evaluation of teaching materials to develop Fundamentals of social workers—

木村 典子 Noriko Kimura
菅瀬 君子 Kimiko Sugase
後藤 恵子 Keiko Goto
秦 真人 Mahito Hata
江良 友子 Tomoko Era,
山本 豊 Yutaka Yamamoto
小山田 尚弘 Naohiro Oyamada
長谷川 えり子 Eriko Hasegawa
(全8名：愛知学泉短期大学生活デザイン総合学科)

抄 録

生活デザイン総合学科の教員で、大学周辺地域の「まちづくり」プロジェクトを題材に、学生の「社会人基礎力」を育成する教材であるプロジェクト学習を開発した。知識と実践の融合による社会人基礎力の育成のプロジェクト学習である。本稿では、社会人基礎力育成の教材である「生デ まちづくりプロジェクト」を示し、その効果を教員評価、学生の自己評価、外部評価から考察した。一年間で、「創造力」「協働力」が統計上、有意に、伸びた結果になった。社会人基礎力の要素は単独で活かされるものではなく、それぞれの要素が関係しあっていることが分析によって明らかになった。

キーワード

プロジェクト学習 Project learning、社会人基礎力 Fundamentals of social workers、自己評価 Self-evaluation、教員評価 Teacher's evaluation、外部評価 External evaluation

目 次

- 1 緒言
- 2 生デまちづくりプロジェクト
- 3 研究目的
- 4 研究方法
- 5 結果
- 6 考察
- 7 まとめ

1 緒言

社会人基礎力の育成が求められる経緯には、職場環境が ICT 化、異国・異地域と、異なる専門分野とパートナーシップが求められるようになったことがある。仕事をするにあたり、自ら主体となって、仕事をデザインし、周囲に働きかけ、巻き込んでいく行動が求められるようになった。自ら考え、学び、行動でき、自分のキャリアを自分で意思決定し、人と関わる力を養い、自ら能力を身につけられる自律した人材が求められるようになった。自律した人材を育成するには、学生の中から教育的働きかけの必要性も叫ばれている。

社会人基礎力を育成するにあたり、プロジェクト学習は有効といわれている。プロジェクト学習は現実社会の中で展開していくため、常に考え、状況に対応しながら、展開していく知的活動の連続であるからである。プロジェクト学習の過程が準備、ゴールの共有、企画・実施、調査・分析、広報などと細分化されている。そのことによって、「達成したことが何であるか」「どうしてそれが高く評価されることなのか」「学生の達成感や自己効力感を高める」「次の課題が何であるかをみつける」と学生の学習活動を促進していくようになる。

McTighe は、永続的理解について、得た知識・スキルを学生自らが、思考、判断、表現できることと説明している。つまり、知識やスキルはただ知っているだけでなく、実社会など複雑な状況の中で使いこなすことがパフォーマンスとなる。

プロジェクト学習の評価は、学生のパフォーマンスによって表現されるものを評価していく。これは教員評価として行われる。評価には教員評価の他、学生自身の自己評価、外部者による外部評価がある。

学生の社会人基礎力を育成するために、生活デザイン総合学科の教員で、知識と実践の融合による大学周辺地域の「まちづくり」プロジェクトを題材に、学生の「社会人基礎力」を育成する教材を開発した。そのプロジェクト学習の評価を多角的に、パフォーマンス評価、自己評価、外部評価を行った。まず、社会人基礎力育成の教材である「生デ まちづくりプロジェクト」を示し、学生のパフォーマンス評価、自己評価、外部評価から、学習の効果を報告する。

2 生デ まちづくりプロジェクト

プロジェクト学習の題材は「まちづくり」とした。ビジョンを「地域と学生との交流を増やし、地域力

の高いまちにしたい」、ゴールを「矢作北地域の特徴を踏まえて、地域力を高めるためのサロンの提案集をつくる」とした。大学の周辺の地域住民を対象とした木曜サロンの活動を通して、よりよいサロンの提案である。サロン活動の実施に主眼を置くのではなく、その活動を通して、学生達、学んだ知識を活用するために、自ら考え、行動、振り返りをし、よりよいサロンの提案を自分言葉で表現できることにあった。McTighe の示している永続的理解を参考に、学生が修得した知識・スキルを活用して、思考・判断・表現できる教材である。パフォーマンス能力を念頭にした。学生へ提示したパフォーマンス課題は「サロンの開催、まち歩き、地域の活動に参加、全体会の報告の活動を通して、矢作北地域の特徴を踏まえて、地域力を高めるためのサロンの提案集をつくる」である。そのループリックをつくり評価観点は、地域調査・リフレクション・内容・体裁とした。知識と実践の融合による社会人基礎力の育成によって、「学生の社会人基礎力が高まる」「学生のメタ認知が高まり、自らのセルフコーチング能力が高まり、社会人となったときに即戦力となれる人材に成長できることが期待され」「地元で愛される大学として地域活性化につながり、生活デザイン総合学科の目指す地域貢献のできる人材育成ができる」「地域のまちづくりを通して、地域住民間、学生と地域の人の間に地域連帯ができる」「領域を超えた学生、教員との連携が密になることで、学生にとっては、学習の幅が広がり、教員間の研鑽につながる」「他の教員が作成されたプロジェクト学習教材を活用することができる」がある。この活動の波及効果は学生のみならず、他の教員、地域の方へも及ぶ。地域にとって、サロン活動の場は、地域の人同士が知り合い、ネットワークづくりにつながり、地域の活力になっていくことが予想される。



図1 生デまちづくりプロジェクト構造図

3 研究目的

社会人基礎力育成のために開発した教材「生デまちづくりプロジェクト」を教員評価、学生の自己評価、外部評価から、学習の効果をみる。

4 研究方法

4.1 研究の対象

2017 生デまちづくりプロジェクトに参加した学生 102 名

4.2 研究期間

2017 年 2 月～2018 年 2 月

4.3 学習効果を測定する評価表

「生デまちづくりのプロジェクトの成果物であるよりよいサロンの提案」課題の教員評価、愛知学泉短期大学【授業版】社会人基礎力セルフチェックシートによる学生の自己評価、株式会社リアセックが開発したジェネリックスキルテストによる評価にて行った。

4.4 「生デまちづくりのプロジェクトの成果物であるよりよいサロンの提案」課題の教員評価 (表 2)

課題は前述にもあるように、学生に提示したパフォーマンス課題である。知識、技術、経験を統合して実践に結び付けるものとなっている。評価観点は、地域調査・リフレクション・内容・体裁とした。

三段階評価となっている。合算すると、最高得点が 16 点、最低点が 4 点となる。

4.5 愛知学泉短期大学【授業版】社会人基礎力セルフチェックシートによる評価

愛知学泉短期大学【授業版】社会人基礎力セルフチェックシートは、社会人基礎力の 12 項目に対して、各々 10 の質問項目より構成されている。「できている」「できていない」の二段階評価を学生が自己の今の状態をセルフチェックするようになっている。

学生がセルフチェックした「できている」を「1 点」、「できていない」を「0 点」と点数化し、次に社会人基礎力の 12 項目ごとに加算した。加算して出た点数を社会人基礎力の 12 項目の点数とした。

社会人基礎力一項目につきの最高得点は 10 点で、最低点は 0 点となる。

4.6 株式会社リアセックが開発したジェネリックスキルの外部による評価

株式会社リアセックが開発したジェネリックスキルテストは社会に求められる汎用的な能力・態度・志向を測定し、育成するためのプログラムとして開発された。ジェネリックスキルを可視化し、客観的評価の指標を設けている。リテラシーとコンピテンシーに分かれている。リテラシーでは、「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」「構想力」の問題解決のプロセスに不可欠な 4 つの要素を測定している。コンピテンシーでは、「対課題」「対人」「対自己」の 3 領域に分け、客観的な評価をしている。

ジェネリックスキルのコンピテンシーは「親和力」「協働力」「統率力」「感情制御力」「自信創出力」「行動持続力」「課題発見力」「計画立案力」「実践力」の 9 項目で構成されている。1 から 7 段階の評価となっている。点数が増すほど、良い状態となる。

本研究ではその社会人基礎力と類似しているコンピテンシー評価を行った。1 から 7 で点数化した使用した。

ジェネリックスキルのコンピテンシーの内容を吟味し、以下の表 1 に、社会人基礎力の 12 項目を対応させた。

表 1 社会人基礎力とコンピテンシー対応表

社会人基礎力	コンピテンシー
柔軟性 傾聴力	親和力
働きかけ力	協働力
状況把握力 ストレスコン力	感情制御
発信力	統率力
柔軟性	自信創出力
主体性	行動持続力
課題発見力	課題発見力
計画力	計画立案力
実行力	実践力

4.7 分析方法

「生デまちづくりのプロジェクトの成果物であるよりよいサロンの提案」課題の教員評価の 7 月、1 月の前後比較、愛知学泉短期大学【授業版】社会人基礎力セルフチェックシートによる評価の 4 月、9 月、2 月の前中後比較、株式会社リアセックが開発したジェネリックスキルの外部による評価の 4 月、12 月の前後評価を対応のある t 検定を行った。

愛知学泉短期大学【授業版】社会人基礎力セルフチェック 12 項目、ジェネリックスキルのコンピテンシーの 9 項目を因子分析し、因子間の関連をみた。因子分析は主因子法を用いた。

次に、学生の自己評価と外部評価である客観的評価の関連をみるために、相関係数を求めた。

いずれの検定において、有意確率を 0.05 とした。

4.8 倫理的配慮

個人が特定されないように配慮した。対象者には、平成 28 年度愛知学泉短期大学 GP 事業であり、結果は今後の社会人基礎力を育成する資料に活用していくと説明をした。

5 結果

「生デまちづくりのプロジェクトの成果物であるよりよいサロンの提案」課題の教員評価の分析対象人数は 18 名、【授業版】社会人基礎力セルフチェックシート、株式会社リアセックが開発したジェネリックスキルの外部による評価の分析対象人数は 55 名となった。対象人数が少なくなった理由は前後比較するため、前後での評価表を提出していな学生分を除いたためである。

5.1 「生デまちづくりのプロジェクトの成果物であるよりよいサロンの提案」課題の教員評価

表 2 に結果を示した。7 月提出内容より、12 月提出した課題の内容が、データを用いて、より具体的

表 2 「生デまちづくりのプロジェクトの成果物であるよりよいサロンの提案」課題の教員評価表

	A	B	C
地域調査	まち歩き、岡崎市のデータを活用して、矢作北地域の特徴を述べ、サロン活動の提案に結びつけている。	まち歩き、岡崎市のデータを活用して、矢作北地域の特徴を示しているが、サロン活動の提案に結びつきに欠ける	まち歩き、岡崎市のデータのいずれかは示しているもしくは、示していない。
リフレクション	サロン活動を振り返り、よりよくする方法を述べ、提案に結び付けている。サロン活動の成果、今後の展望が述べられている	サロン活動を振り返りはあるが、次の段階であるよりよくする方法に結び付けていない。行ったことの繰り返すことを示している	サロン活動を振り返りはあるが、次の段階で方法に結び付けていない。今後の活動への結びつきはない。
内容	提案しているサロン活動には、理由付けがあり、実行可能で明確である。	サロン活動の提案はあるが、実践するには、修正が必要である。理由付けがすくない。	提案されているサロン活動は実現不可能であり、理由づけはない。
体裁	絵・色などを入れて、わかりやすく工夫している。文の体裁は整えられており、違和感なく読める。誤字脱字がない。	絵・色を入れているが、内容と結びついていない。一部誤字脱字がみられる。	全体の体裁が整えられていない。誤字脱字が多い

表 3 教員評価の結果

	A = 3 点		B = 2 点		C = 1 点	
	7 月	12 月	7 月	12 月	7 月	12 月
地域調査	2 名	12 名	11 名	3 名	5 名	3 名
リフレクション	3 名	10 名	10 名	5 名	5 名	3 名
内容	2 名	12 名	12 名	3 名	4 名	3 名
体裁	5 名	9 名	10 名	6 名	3 名	3 名

な内容になり、どの項目においても、A のランクになった学生が増えた。1 年の活動を通して、変化が少ない、C レベルの学生も少数いた。

12 月提出課題ではどの学生も、データの活用がみられた。自分の主張と結びつけようとする努力はみられていた。

学生の提出したよりよいサロンの提案集の一部を図 2 に示した。

5.2 愛知学泉短期大学【授業版】社会人基礎力セルフチェックシートによる評価

4 月、9 月、2 月に、現時点での社会人基礎力の状態を示すように、学生に指示した。4 月と 12 月の比較で、統計上有意に、伸びていたのは「創造性」($p=0.033$)のみであった。統計上、有意ではないが、「主体性」「働きかけ力」「課題発見力」「計画力」「創造力」「発信力」「傾聴力」「状況把握力」「規律性」の 9 要素の点数はあがっていた。

分類「チームではたらく力」のそれぞれの要素は、10 点満点で、7 点前後で、「できている」と答える項目が多い結果であった。その項目に、「柔軟性」(最終評価の 2 月時に 7.42 ± 2.31 点)、「ストレスコントロール力」(最終評価の 2 月時に 7.20 ± 2.77 点)、「傾聴力」(最終評価の 2 月時に 7.18 ± 2.36 点)であった。

「できていない」と答える項目が多い社会人基礎力の要素は「規律性」(最終評価の 2 月時に 2.74 ± 2.75 点)、「主体性」(最終評価の 2 月時に 3.89 ± 2.56 点)であった。

5.3 株式会社リアセックが開発したジェネリックスキルの外部による評価

ジェネリックスキルテストのコンピテンシー評価では、4 月と 12 月で比較して、統計上有意に、伸びていたのは「協働力」($p=0.031$)、「自信創出力」($p=0.000$)であった。統計上、有意ではないが、「感情制御」「統率力」「自信創出力」「統率力」「行動持続力」「課題発見力」「計画力」「実践力」の 7 要素の点数はあがっていた。ジェネリックスキルテストのコンピテンシー評価は 7 段階でおこなわれている。数字が大きいとよい評価となる。12 月におこなったジェネリックスキルテストのコンピテンシー評価において、平均が 3 点未満となる要素が「統率力」(最終評価の 12 月時に 2.62 ± 1.42)「計画力」(最終評価の 12 月時に 2.95 ± 2.10)であった。あとの要素は 3 点台となっていた。その中でも、点数が高い要素に

「協働力」(最終評価の 12 月時に 3.60 ± 2.02)、「自信創出力」(最終評価の 12 月時に 3.56 ± 1.75)があった。

5.4 愛知学泉短期大学【授業版】社会人基礎力要素の因子分析

学生が起こす行動は、社会人基礎力の要素はそれぞれが関連しあっていると考えて、社会人基礎力の関連をみるため、因子分析をした。2 因子、抽出された。因子 1 に、「傾聴力」「発信力」「状況把握力」「柔軟性」「ストレスコントロール力」「働きかけ力」「創造力」があり、因子名『自己コントロールと他者との関係』とした。因子 2 に、「計画力」「実行力」「課題発見力」「規律性」「主体性」があり、『問題解決思考』とした。

5.5 ジェネリックスキルの外部による評価

学生が起こす行動は、コンピテンシーも社会人基礎力同様、要素のそれぞれが関連しあっていると考えて、関連をみるため、因子分析をした。ジェネリックスキルテストは客観評価尺度であるため、より要素間の関係を考えるのにより精度が高いと考えた。結果、2 因子、抽出された。因子 1 に、「自信創出力」「協働力」「親和力」「統率力」「行動持続力」「感情制御力」「傾聴力」「発信力」「状況把握力」「柔軟性」「ストレスコントロール力」「働きかけ力」「創造力」があり、因子名『自己効力感・コントロールと他者との関係』とした。因子 2 に、「計画立案力」「実践力」「課題発見力」「計画力」があり、『問題解決思考』とした。

5.6 愛知学泉短期大学【授業版】社会人基礎力セルフチェックシートとジェネリックスキルの外部による評価の関係

社会人基礎力とジェネリックスキルの要素で、類似した項目を対応させて、要素間の関連をみた。要素間の対応は表 1 にある。

学生による自己評価とジェネリックスキルの客観的評価が関係しているかをみることで、学生が適正な自己評価をしているか考える資料にしたかったからである。

相関がみられた要素は「協働力」と「働きかけ力」($R=0.404$, $p=0.002$)、「感情制御力」と「状況把握力」($R=0.287$, $p=0.033$)、「実践力」と「実行力」($R=0.274$, $p=0.043$)であった。

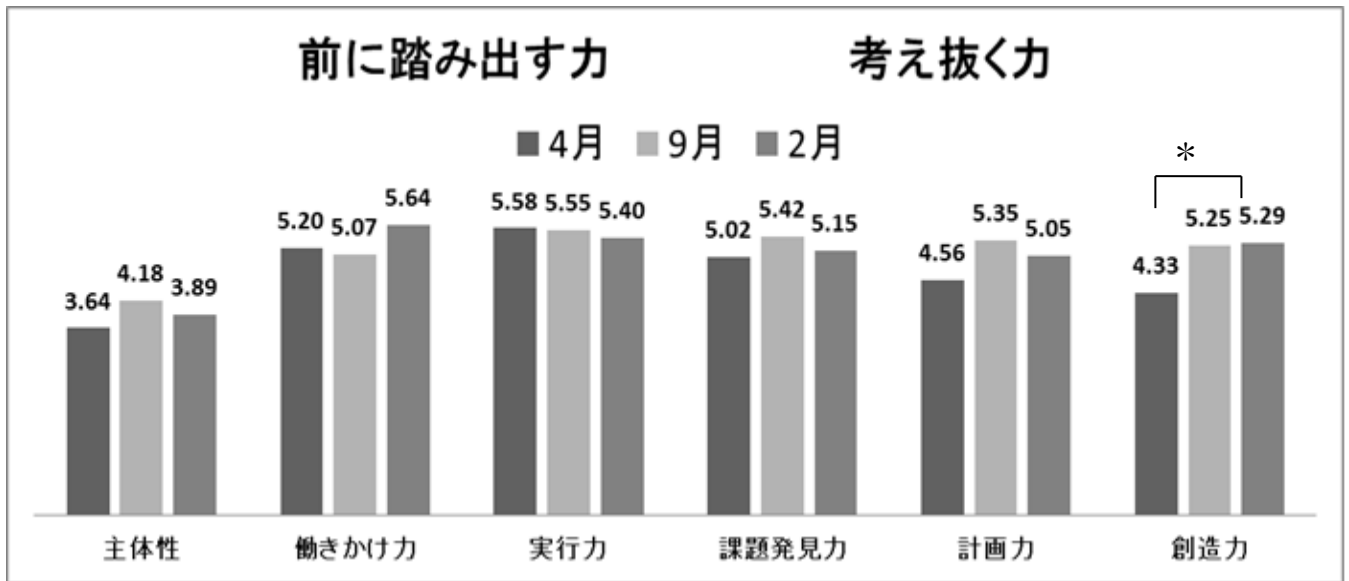


図 3-1 学生の自己評価 社会人基礎力

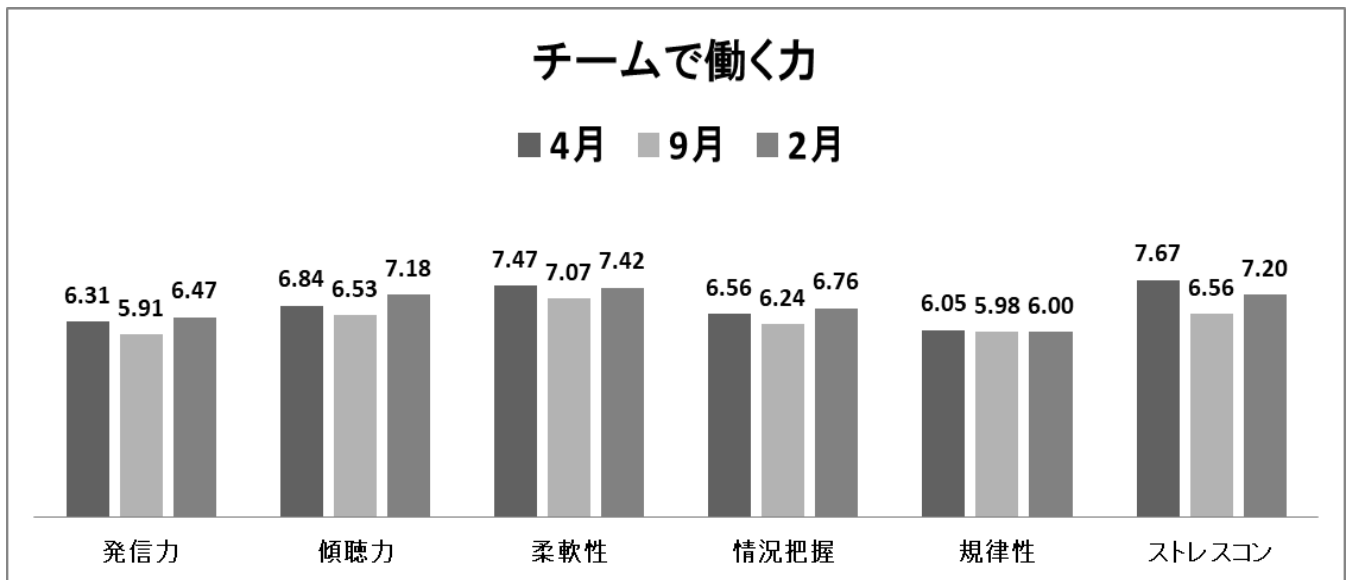


図 3-1 学生の自己評価 社会人基礎力

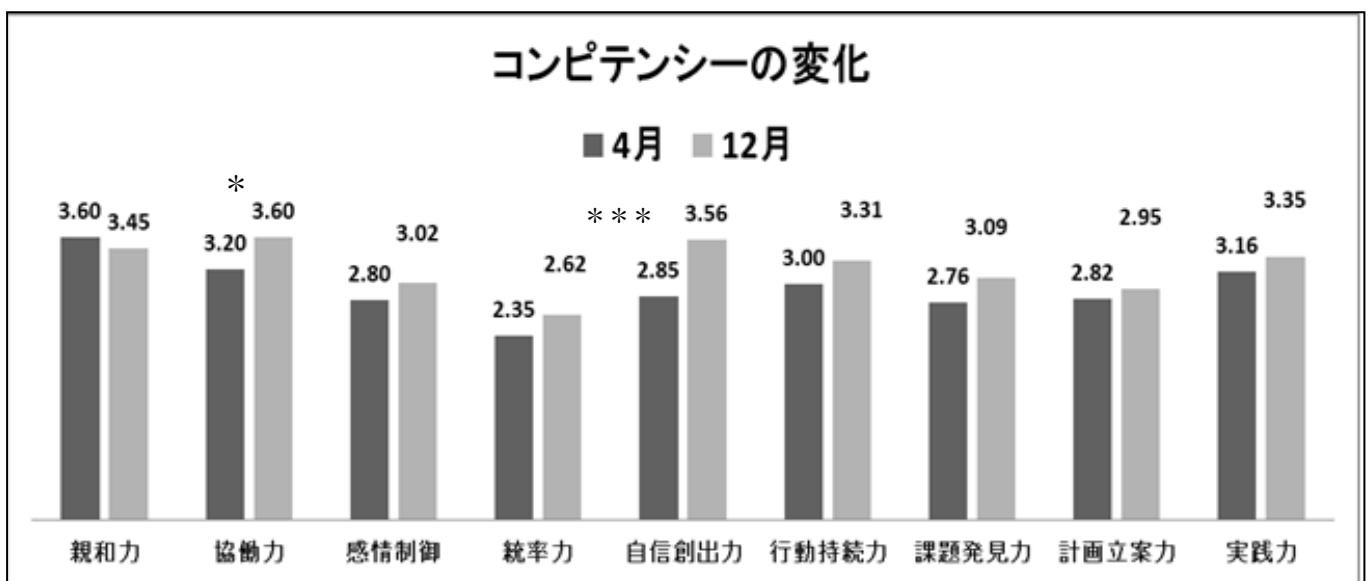


図 4 外部評価 コンピテンシー

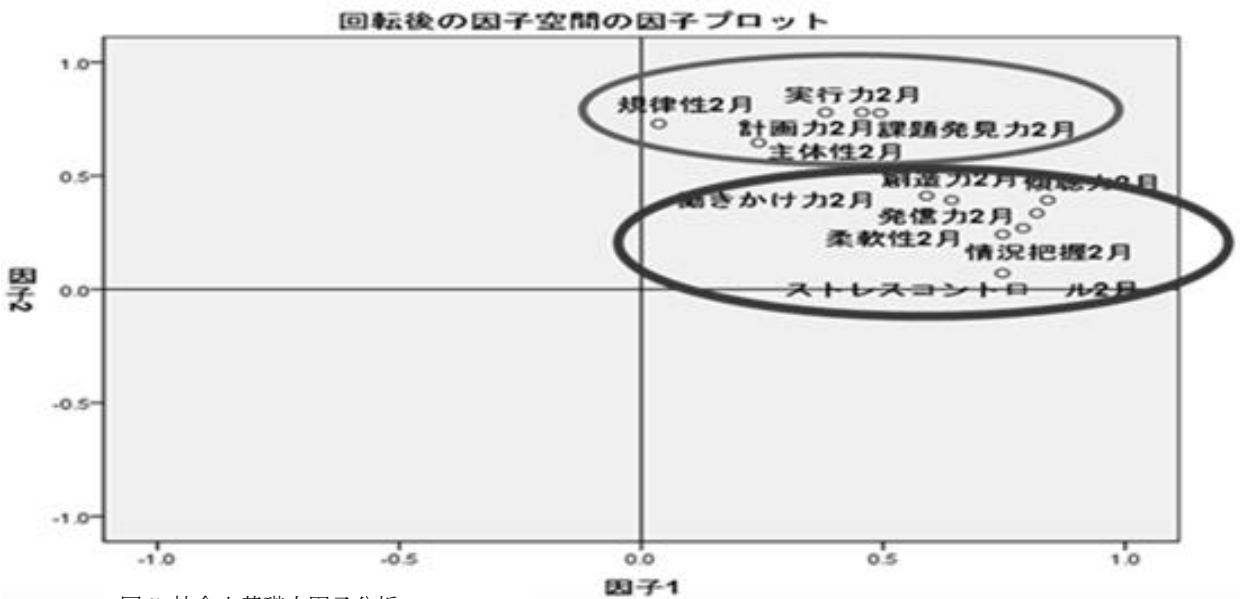


図5 社会人基礎力因子分析

表4 社会人基礎力因子分析

	因子1 自己コントロールと 他者との関係	因子2 問題解決 思考
傾聴力2月	.840	.393
発信力2月	.817	.335
状況把握2月	.789	.270
柔軟性2月	.747	.242
ストレス2月	.746	.071
働きかけ力2月	.641	.393
創造力2月	.590	.412
計画力2月	.456	.780
実行力2月	.381	.779
課題発見力2月	.494	.776
規律性2月	.036	.729
主体性2月	.242	.645

表5 コンピテンシー因子分析

	因子1 自己効力感・ コントロールと 他者との関係	因子2 問題解決 思考
自信創出力12月	.909	.001
協働力12月	.826	-.030
親和力12月	.810	.243
統率力12月	.761	.144
行動持続力12月	.699	.237
感情制御12月	.530	.176
計画立案力12月	.023	.951
実践力12月	.067	.656
課題発見力12月	.319	.602

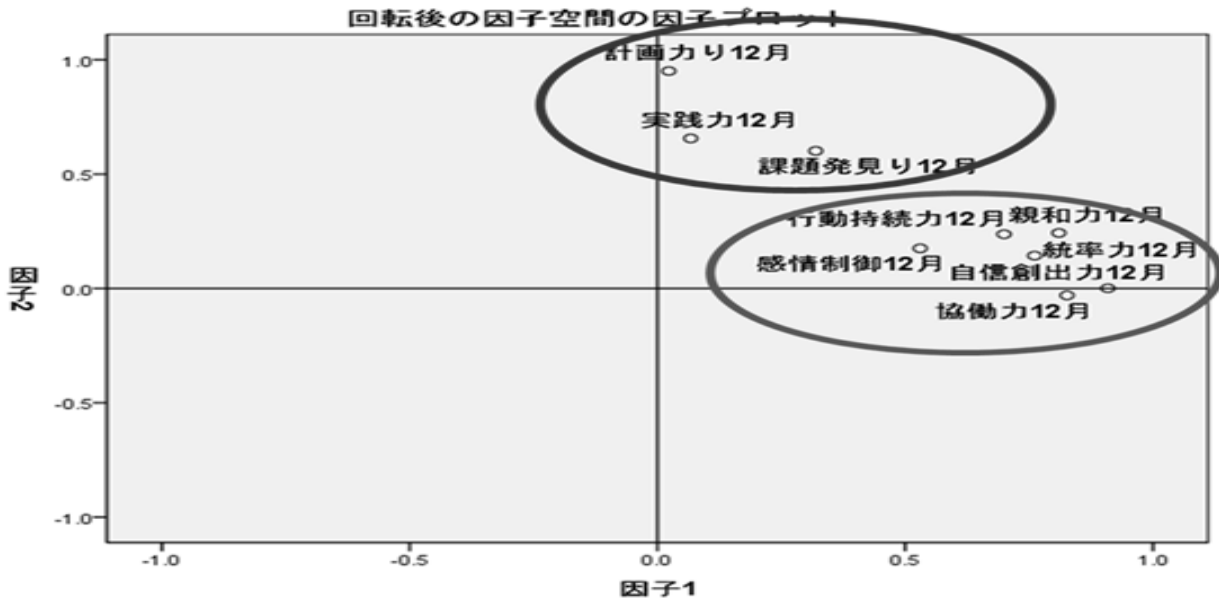


図6 コンピテンシー因子分析

表 6-1 社会人基礎力とコンピテンシーの相関

	傾聴力2月	柔軟性2月
Spearman 親和力12月 相関係数 の ρ -	.200	.142
有意確率 (両側)	.142	.301
N	55	55

表 6-2 社会人基礎力とコンピテンシーの相関

	働きかけ力 2月
Spearman 協働力12月 相関係数 の ρ -	.404
有意確率 (両側)	.002
N	55

表 6-3 社会人基礎力とコンピテンシーの相関

	発信力2月
Spearman 統率力12月 相関係数 の ρ -	.129
有意確率 (両側)	.347
N	55

表 6-4 社会人基礎力とコンピテンシーの相関

	状況把握2 月	ストレスコ ントロール 2月
Spearman 感情制御12 相関係数 の ρ - 月	.287	.229
有意確率 (両側)	.033	.092
N	55	55

表 6-5 社会人基礎力とコンピテンシーの相関

	柔軟性2月
Spearman 自信創出力 相関係数 の ρ - 12月	.003
有意確率 (両側)	.984
N	55

表 6-6 社会人基礎力とコンピテンシーの相関

	主体性2月
Spearman 行動持続力 相関係数 の ρ - 12月	.265
有意確率 (両側)	.051
N	55

表 6-7 社会人基礎力とコンピテンシーの相関

	課題発見力 2月
Spearman 課題発見り 相関係数 の ρ - 12月	.214
有意確率 (両側)	.117
N	55

表 6-8 社会人基礎力とコンピテンシーの相関

	計画力2月
Spearman 計画力12 相関係数 の ρ - 月	.248
有意確率 (両側)	.068
N	55

表 6-9 社会人基礎力とコンピテンシーの相関

	実行力2月
Spearman 実践力12月 相関係数 の ρ -	.274
有意確率 (両側)	.043
N	55

6 考察

社会人基礎力育成のために開発した教材「生デまちづくりプロジェクト」を教員評価、学生の自己評価、外部評価から、学習の効果をみた。

教員評価の結果から、「生デまちづくりプロジェクト」の成果物としての提案はまち歩き、サロンの回

数、全体会を通して、サロンへの参加者へのアンケートなどを通して、学習の深化が進んでいったことが考えられる。学生自身が提案したよりよいサロンの提案を、より分かりやすく、現実性のあるものにするために、データからの考察、サロンでの振り返りが有効になったと考える。

学生が行った社会人基礎力の自己評価となった愛知学泉短期大学【授業版】セルフチェックシートでは120項目の質問があったが、研究者が加工をして評価、分析をおこなった。そのため、偏りのあるのは否めないと考える。しかし、学生自身が捉えている「できている」「できていない」は把握しやすい状況にある。学生達は「主体性」に欠けることは自身でもわかっている。現代の若者の特徴であるとも考えられる。如何に、「主体性」をもたせる教育に取り組むことが必要と言えよう。

株式会社リアセックのジェネリックスキルテストから、一年間で、「自信創出力」が伸びたことはよい結果である。2年生になり、社会とのいろいろな面からの活動の成功体験などが影響してきていると思われる。

学生の自己評価の社会人基礎力、ジェネリックスキルテストのコンピテンシーをそれぞれ、因子分析しても、「自己と他者との関係」と「問題解決思考」といった同じような因子となった。このことから、社会人基礎力は個々で活かされるわけではなく、個々の要素が相互に絡み合っていることがわかる。そのため、学生に課題を出すときは、例えば、問題解決をする内容の課題を出すことで、「計画力」「実行力」「課題発見力」「規律性」「主体性」が育成されることになる。教員に学生の効果的に社会人基礎力を育成する能力がもとめられている。

学生の自己評価の社会人基礎力とジェネリックスキルテストのコンピテンシーの相関からは、「協働力」と「働きかけ力」、「感情制御力」と「情況把握力」、「実践力」と「実行力」の3項目のみであった。社会人基礎力とジェネリックスキルテストのコンピテンシーの質問項目を見直しても、対応させた要素に隔たりがあるとは考えにくい。考えられることとして、学生が適正に自己の社会人基礎力を評価できていないとも考えられた。

7 まとめ

社会人基礎力は一年程度で、著しく伸びる能力ではない。学生自身、時に振り返り、考えて培われてい

くものであると言える。自己を成長させる振り返りのできるようになる人を育てることが必要といえる。社会人基礎力の要素はそれぞれ絡みあっているため、意図的な課題をつくるといったことが教員に求められる。

「生デまちづくりプロジェクト」の成果物としての提案ではより分かりやすく、現実性のあるものにすることができるようになった。学生の自信をつけ、主体的に物事に取り組めるように働きかけが必要である。

謝辞

「生デ まちづくりプロジェクト」をすすめていくにあたり協力をいただいた矢作北地域の総代様、民生委員様、はしめ地域包括支援センターの皆様、愛知学泉短期大学 GP 事業として支援してくださった寺部暁理事長先生、安藤正人学長先生をはじめ、多くの教職員の皆様に感謝いたします。

追記

この事業は平成28年愛知学泉短期大学 GP 事業で支援をうけて行った活動である。

引用文献

- 1.鈴木敏江、プロジェクト学習の基本と手法、課題解決力と論理的思考力が身につく、教育出版、2012
- 2.McTighe,J & Wiggins,G、Understanding by Design、Professional development、ASCD(2005)

参考文献

- 1.木村典子他、:地域連帯を高めるための高齢者ボランティアが活躍できるサロンの提案,地域活性化研究 10,1-1-2016

(原稿受理年月日 2018年10月11日)